

ある日の育児日記から

(13)

佐藤 和代



おなかの子は五か月にはいりました。つわりも一段落。でも、まだ体調は思わしくなく、圭と遊ぶ時間も少なくなりがちです。

そんな中で救いなのは、圭のおしゃべりが上達したこと。言葉のやりとりで遊べるし、不満なことがあっても、気持ちを言葉で伝えられる分、落ちつくようです。

近頃は、こんな少ない語彙でよく表現できると感心してばかり。そういう能力は、幼児の方が大人よりずっと上ですね。

私が部屋を出ようとすると「おおかみがくるか

らダメ」。ひとりになる

のはこわいの、ということでしょう。急に台所に

やってきて「あのね、お母さんがいいのー」と言

うときは、ハハア、お父さんに叱られたな、と察知します。「カーンクーク食べる」「カーンクーク？ なあに？」「あのね、ガサガサッてね、に

ゅーにゅー（牛乳）とね…」こんなときの説明は真剣そのもの。「あつ、コーンフレークね！」わ

かってもらえるニコニコ顔になります。



当分は、判じ物のようなかわいいおしゃべりが楽しめるそう。他の人には通じなくても、お母さんにはちゃんとわかるのよ、と優越感にひたれるというオマケつきです。